

富山県高P連会報

第 120 号
2019.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 山崎 均
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501

平成30年度富山県高P連大会・指導者研修会を開催

平成30年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会が10月23日、ホテルグランテラス富山で開催されました。



開会式では、瀬島史郎副会長の開会のことばの後、山崎均会長から、本大会・研修会について「高校のPTA活動は、各学校単位での活動が基礎である。本日の大会は、各単Pの活動や講演を身近で聴く貴重な機会であり、これらを通して各単Pでの活動、課題を整理し、今後の活動に活かしてほしい。」との挨拶がありました。

続いて、渋谷克人県教育委員会教育長より、「今日、少子高齢化、グローバル化、価値観の多様化、第4次産業革命の進展など、教育を取り巻く環境が大きく変化する中、学校や家庭、地域社会において多くの課題が生じております。こうした中、貴連

合会の皆様には「イレブン・セブン運動」を始め、様々なPTA活動に積極的に取り組んでいただいております。また、各学校では、「さわやか運動」やPTA進路研修会、親子交流会、PTA通信の編集等で、多くの保護者の方々にご参加いただき、子どもたちの規範意識やマナーの向上、職業観の形成、PTA活動の活性化等にご貢献いただいております。子どもたちの健やかな成長には、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが重要でありますので、皆様のご協力に改めて感謝を申しあげさせていただきます。

本日の大会が有意義な研修となりますよう期待いたしますとともに、皆様には、子どもたちの健やかな成長と高等学校教育の振興に、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。」との祝辞をいただきました。

開会式に引き続き、「活力あるPTA活動を目指して」をメインテーマに、4校のPTAから研究発表がありました。

一 高校教育とPTA
『学校へ行くこと』
中央農業高校PTA
会長 堂田 武宗

二 進路指導とPTA
『本校の取り組みより』
福岡高校PTA
会長 藤森 淳也

三 地域と共に子どもの成長を育むPTA活動
南砺福光高校PTA
会長 島田 優

四 特色あるPTA活動
『本校における取り組み』
しらとり支援学校PTA
前会長 江尻 涼子



全体討議で 江尻 涼子 氏は各発表に対して活発に質疑応答が行われ、充実した討議となりました。

その後、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班の辻ゆかり班長と魚津高校の神田聡校長から講評をいただきました。

辻班長は、「いずれの発表も各学校の特色を活かした特徴的な発表であった。中央農業高校では、学校行事とPTA活動がスムーズにつながり、参加する保護者の思いを十分に考慮したPTA活動を模索していることがうかがえる。福岡高校では、進路指導にかかわるPTA活動

にいろいろな工夫がなされ、参加者が増加する活動もでてきている。また、子どもとともに考える活動を実践している。南砺福光高校では、PTA活動が地域をキーワードに展開されている。また、保護者の前向きな姿勢が随所にあられ、子どもたちを支援している。しらとり支援学校では、親同士の学びあいの場の設置、目的を明確にした活動の実践などPTA活動の輪を、地域に、共生社会に広げている。4校の熱心な取り組み・発表に心から敬意を表したい。本日の発表で得たことを各学校に持ち帰り、今後のPTA活動に活かしてほしい。」と助言されました。

神田校長は、「4校いずれの発表も、地域を巻き込み、保護者が学校での活動を見る機会をつくっていくことを重視している。そのような機会を通じて、保護者同士の親睦も深まり、ネットワークも構築される。また、保護者の安心感を創出できる。学校の教育方針も直に聞ける機会であり、今後も各校で推進していただきたい。その中で、これまでの活動を活かし、スマホの問題や成人年齢の引き下げなど時代の潮流に対応した取り組みもPTAとして必要になってくる。各校の活動がさらに活性化することを期待する。」とまとめられました。

最後に記念講演があり、一般社団法人ソーシャルメディア研究会チーフ技術指導員の竹内義博氏が、「スマホ時代の現状と対策」実例から考える子供の守り方」と題して講演されました。

記念講演

演題 「スマホ時代の現状と対策」

～実例から考える子供の守り方～

講師

一般社団法人ソーシャルメディア研究会

チーフ技術指導員

竹内 義博 氏



平成7年頃からインターネットの利用が一般にも広がり始めました。現在、低年齢化していることは確かであり、スマホ時代はいろいろな問題が起こっています。そのリスクは無限大です。本日は、皆さんと一緒に考える機会にしたいと思います。

1 SNSのトラブル

小6のC子の話です。友だちのA子からぬいぐるみをもらい、嬉しかったので16人グループのLINEに「A子にぬいぐるみももらった。このぬいぐるみ、かわいくない」と書き込んだところ、A子は「私のあげたぬいぐるみをみんなの前でかわいくないと言われた」と怒りトラブルになり、クラスで仲間はずれにされました。裏で別グループを作って、LINEのやりとりを行い、暗黙の了解で翌日C子を見殺しにします。同じようなトラブルは他に派生していきます。いじめられていると言っていると止められ続ける可能性があります。いじめられた子は先生や保護者に言いません。個人と個人の問題だったものが集団の問題となり、傍観者も一緒に無視や口裏合わせをし、加害者になっていきます。だから傍観者の中から仲裁者をつくるということが子供たちに気づかせることが大切です。誰かが「？マーク忘れているよ」とか「すぐかわいね」と言うことで救われます。こういうこと

が言える関係や、トラブルを未然に防ぐ方法が子供たちに気づかせないといけません。

2 危険な出会い

SNSによる被害が増加し、平成29年度の警察庁の資料によるとツイッターに起因する被害が最大です。ツイッターでは複数のアカウントが可能で、メインのアカウントを本垢といひ、裏垢(リア垢、闇垢など)もあります。特に闇垢は見えないので、問題が起こります。平成27年のデータでは、女子高生は平均3.4個のアカウントを持っています。複数アカウントの問題は昨年神奈川県で9人が被害された事件にもあらわれています。非行歴があるわけではなく、ごく一般的な子が被害にあっている場合が多いそうです。

中2のA子の話です。SNSで同じ年のM子と知り合い、仲良くなつて信頼関係ができました。やがて写真を送り合うようになりましたが、会おうという要求を断つたらM子は豹変し、今までの写真や個人情報などをばらまくと脅されました。逮捕されたM子は30代の男でした。犯人が逮捕されても、A子の写真がネット上に残っている可能性があり、回収は不可能です。一生びくびくと生きていかなければならないという痛ましいことが起こっています。こういう児童ポルノの被害の約4割が自撮り被害です。「常識でダメに決まっているだろう」と言っても、彼・彼女には通じません。何がだめなのかきちり説明していかないとダメです。被害の背景には、さびしい、話を聞いてほしい、ネットの人は優しい、認めてほしいという思いがあります。さびしかったら相談に乗つたり話を聞いてあげればいいし、まわりにいる大人がやさしくしたら、ネットに求めて逃げていかなければいいかと思えます。普段から「よかつたね」と認めてあげる、それくらいはわかれにできることではないかと感じています。

3 長時間使用

ネット依存のタイプは、ゲームにハマる「デバイス依存」、女子に多くコミュニケーション

系のアプリ・チャットにハマる「つながり依存」、動画を見続けたりする「コンテンツ依存」の3つに分類されます。しかし今はゲームをグループでもするので、デバイス依存とつながり依存が一体化し、友だちからゲームに誘われたりするとなかなかやめられません。ネットやネットのゲーム・動画は次々と新しいものが出てきたり別のところにつながりたりして終わりが無いのでハマってしまうのです。

中2の女子から聞いた話です。夜寝ようとしたらLINE上でおやすみ合戦(「うちゃんおやすみ」が延々続く)が始まり、いつまでも寝られなかった。次の日学校で友人たちと話をしたら自分だけではなくてみんな眠いと感して返事を返してはダメと決めたという話でした。この子たちは自分たちで気づいて解決できました。これからは自律した子をいかに育てていくかということが大切です。やめなさいと一方的に言うのではなく、自分からやめられるように今スマホ依存が問題になっていますが、多くは病的な依存ではありません。いかにスマホと共存していくかを探っていくかなければならないではないでしょうか。

4 対策

リアルの世界では、本屋さんでは「のれん」の向こうは18未満禁止などとなっていますが、ネット上にはこういう「のれん」がありません。無意識・無自覚のうちに入っているのが、感覚が麻痺しているのではないのでしょうか。いま起こっているいろいろな問題を阻止するためにはフィルタリングがあり、それはネット上の「のれん」ではないかと感じています。フィルタリングをしていかなかった児童が被害に遭っているという統計も出ています。しかしフィルタリングはソフトなので限界があります。ですから、私が「人間フィルタリング」と名付けている保護者の対応が大事です。それは、変化に敏感、相談できる雰囲気がある、ダメなものにはダメと言え、保護者のつながりがある、ということだと思います。また、家庭でできることとして、ルール

5 まとめ

「他律から自律へ」ということがこれからのネット社会を生きていく上で一番大切なことではないでしょうか。小学校くらいまではきつちりルールを作ってダメなことを教えないといけません。高校生になつたらむしろ自律を大切にしたい、フィルタリングに守られなくても自分で判断できる力をつけていく年代だと思います。

「他律から自律へ」ということがこれからのネット社会を生きていく上で一番大切なことではないでしょうか。小学校くらいまではきつちりルールを作ってダメなことを教えないといけません。高校生になつたらむしろ自律を大切にしたい、フィルタリングに守られなくても自分で判断できる力をつけていく年代だと思います。

もう一つの問題はリアルな社会にあります。リアルな社会がしんどいとか、そういう子供たちがネットの社会に逃げ込んで、いろいろな問題が起こっているのです。決定的な答えではありませんが、子供との関わりがあることが一番のポイントではないかと思えます。今まで普通にやっていたことを、今まで通り行い、その延長線上にネットがあるということを考えたら、子供たちを守っていくのではないかと思えます。自分を大切にすることを認め合う、相手を思いやる、声を掛け合い、あいさつをする、このようなことを大切にすることで、変なことをやるうと思う心に歯止めがかかるのではないかと思います。つまりネット・スマホの問題は心の問題と考え、普通に大切なことを子供に伝えていくことが子供を守ることになるのです。

研究発表概要

『高校教育とPTA』

～学校へ行く～

中央農業高校PTA

会長 堂田 武宗

本校は県内唯一の農業科単独の全日制高校であり、普通教育・農業教育・寄宿舎教育を三本の柱とし、広大な敷地と自然豊かな環境で教育活動が行われている。動植物を育てているため、子供たちは寄宿舎での共同生活を送っている。

親元を離れた環境下では、帰省時に子供の成長を多々感じることが出来る。反面、保護者は学校の現状をリアルに知る機会が少なく、保護者同士の繋がりも希薄化していることが問題である。

そこで本校PTAでは昨年度から「中農ウォッチング」と題して、幾つかの学校行事を見学し教育へ理解を深め、バーベキューを通じて会員同士のコミュニケーションを図っている。併せてアンケート調査も行い、保護者の声を学校側に伝えている。また今年度から生徒会・寮生会とPTA代表の意見交換会を年数回実施し、子供たちの声を聴き、学校環境整備に活かしている。農業離れや少子化による生徒数減少は、本校PTA活動にも少なからず影響を与えている。組織の合理化や活動の効率化を図るとともに、今後のPTAのあり方を再検討する必要がある。保護者が子供たちを応援するために「学校へ行こう」と呼びかけ、「知る」「聴く」ことから始め、多くの会員に「伝える」活動を推進していきたいと考えている。

『進路指導とPTA』

～本校の取り組みより～

福岡高校PTA

会長 藤森 淳也

福岡高校では、進路指導委員会が生徒を対象にした事業と保護者を対象にした事業を開催している。

生徒を対象とした「職業人が語る会」は、1年生を対象に、働くことへの理解を深め、将来の進路選択の一助とすることを目的として開催している。講師からその職業を選んだ理由や働きたいなどを語ってもらいようにしている。生徒からは前向きな感想が多く、将来の自分自身を見つめるよい機会となっている。

保護者が対象の「PTA大学見学会」は、「近県大学の施設見学を通して大学に関する理解を深め、子どもの進路サポートの一助とする」という目的で開催している。今年度は、富山大学と、富山県立大学を見学した。保護者が大学のことを知ること、進路を子ども任せにせずに、子どもと共に考えるきっかけとなっている。

今後、時代の流れとともに変化する子どもたちの実態や、入試システムの変化に応じた見直しを図りながら、より良い活動となるように継続し、PTAとして、子どもたち一人ひとりの希望ある将来に向けて、健全な成長を見守りながらサポートしていきたいと考えている。

『地域と共に子どもの成長を育むPTA活動』

南砺福光高校PTA

会長 島田 優

本校PTAは、年間を通して様々な活動に取り組んでいる。

主な活動は、年に2回の保護者対象「大学視察研修」、保護者と卒業生と地域の方が講師となり職業観や勤労観を育む「職業講座」、「さわやか運動」での声かけ活動に加え、福光ねつおくり七夕祭などでの祭礼巡視が挙げられる。

また、国際科相互派遣交流で訪れる留学生のホストファミリーとしての協力や、広報誌『燦燦』の発行、『光高祭』での地元菓子や惣菜の販売などがある。

これらの活動を通して、学校や地域で子ども達をサポートし応援している。本校は、今年度創立六十周年を迎えた。生徒は学習や部活動、学校行事はもちろん、ボランティア活動や文化学習にも熱心に取り組む、全校挙げて地域との交流活動を続けており、地域に大きく支えられ、豊かに育てられてきた学校である。

このたび高校再編対象校の決定を受け、たいへん残念な思いではあるが、今まで以上に愛情を持って丁寧に子ども達に向き合い、先生方や地域の方々と共に、子ども達の豊かな成長を育むPTA活動を今後も行っていきたい。

『特色あるPTA活動』

～本校における取り組み～

しらとり支援学校PTA

前会長 江尻 涼子

本校は、知的障害のある児童生徒が自立と社会参加を目指して学んでいる学校で、小学部・中学部・高等部の児童生徒が学んでいる。

本校のPTA活動は、進路・教養部、わくわく部、広報部、生活部の4つの部会で行事を企画運営している。

保護者の研修の場として、学習会、施設見学等子供たちの進路に関する研修会や防災等生活の充実につながる研修会を実施している。また、親子の触れ合いを深める余暇活動として、「親子ポウリング」や「クリスマス会」を実施し、毎年、多くの親子が参加している。

そして、これらの行事や各PTA連合会の研修会の内容等を掲載したPTA会報「洗心」を発行している。

その他にも子供たちの安心安全な生活をサポートするための「IDカード」を作成し配布している。

これらのPTA活動は、保護者同士が交流し、意識を高め合う機会であるだけでなく、地域や学校とのつながりを広げ、将来への不安を軽減させていくことができる。

障がいの有無に関係なく、一人一人が認め合える真の共生を目指して、PTA活動の輪を広げていきたい。

11ヶ月運動実施状況

昨今、スマホを利用したSNSのトラブルは大きな問題となっており、今年度、県高P大会では、「スマホ時代の現状と対策」と題して竹内義博先生にご講演いただきました。

さて、富山県高等学校PTA連合会では、平成27年度からイレブン・セブン運動（夜11時から翌朝7時までスマホ等を使用しないよう家庭等で話し合いを行い、実行する運動）に取り組んでいます。

今年度も、保護者用・生徒用チラシを作成・配布し、各校の新入生、在校生、保護者への周知をお願いしました。県高P連では、6月及び10月に開催した教育向上委員会、11ヶ月運動の現状や今後の方策等について協議しました。また、昨年度同様に、各校の取り組み状況調査を実施しました。今年度は、例年の質問内容に加え、11ヶ月運動の効果についてを追加しました。

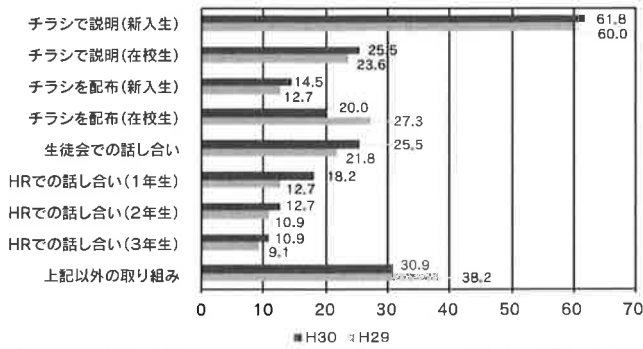
平成30年11月に加盟校全校を対象



に実施した調査結果について報告します。

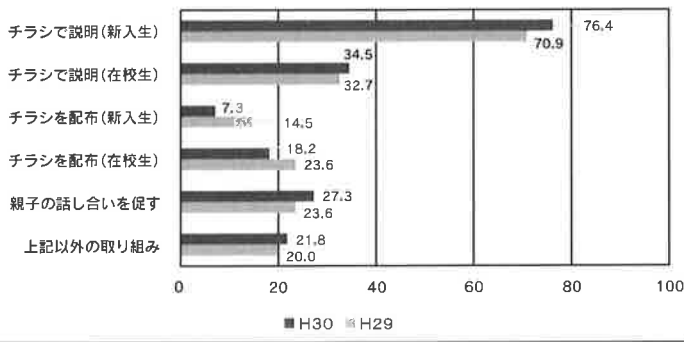
11ヶ月運動の周知を図るために各校で生徒や保護者に対して取り組んだことについて尋ねたところ、以下のグラフに示す結果となりました。新入生及びその保護者への説明会の実施状況は、平成29年度より若干アップしています。また、昨年度増加したホームルームや生徒会で話し合いを設ける取り組みは、さらに増えています。各学校ではネットルールづくりなど、生徒どうしの話し合いの機会が増えているようです。

生徒への取り組み状況(%)



グラフ項目の上記以外の取り組みについて尋ねたところ、独自の使用禁止時間の設定、挨拶運動時や校内放送による呼びかけ、生徒玄関等へのルール掲示、新入生及びその保護者対象の携帯安全教室、保護者・生徒・教員が参加してのディスカッションなどがありました。

保護者への取り組み状況(%)



今年度、新たに調査した11ヶ月運動の効果については、県全体としての取り組みを知り生徒・保護者の意識が高まってきたこと、生徒のネットルールづくりに関わったこと、家庭で使用についての会話やルールづくり

くりなどが行われるようになってきたことなどがありました。

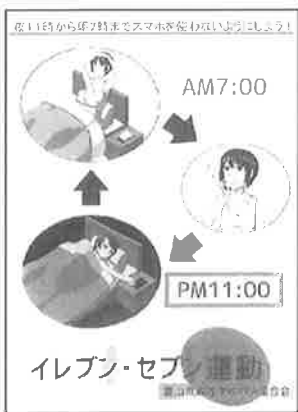
次に、富山県高等学校生徒指導推進研究会（高推研）が平成30年7月に実施したアンケート（対象：高校53校（私立を含む）の各学年1クラス、特別支援学校13校の高等部全クラス）結果について報告します。

全体としては、97%がスマートフォンまたは従来型携帯電話を所有しており、その98%がスマートフォンを所有しています。また、家庭での使用ルールがあると答えた割合は29%となっています。

11ヶ月運動の認知度調査では、県立学校（高P連加盟校）生徒は、前年度とほぼ同じで、58%が知っていると答えています。

学校でのネットルールづくりなどと相まって11ヶ月運動も浸透してきていると思いますが、インターネットやSNS等によるトラブルは後を絶ちません。

県高P連としては、引き続き、11ヶ月運動の啓発活動を行っていきたいと考えていますので、今後、ご理解、ご協力をお願いします。



共学共育

雄峰高校PTA

「子どもを通してできた縁を大切に」

本校のPTAは、会長1名、副会長3名、会計監査2名、委員29名で構成される役員が中心となつて活動を行っています。また本校は昼間・夜間単位制、通信制、専攻科と、年齢も学習時間帯も異なる生徒たちが一つの校舎で学習や生活を行い、学校行事では各課程の枠を超えて、生徒たちが意欲的に参加・協力しています。



さわやか運動

夏と秋に行われるさわやか運動では生徒・教員・保護者が参加し、登下校する生徒とあいさつを交わし、保護者からは「先生方と子どもたちとのやりとりにとても温かいものを感じた」という意見をいただきました。8月に校長先生と同行させて頂いた全国高P連研究大会(佐賀県)では、多数の参加者の活躍を目の当たりにし、身の引き締まる思いをいたしました。貴重な体験をさせて頂き感謝しております。

11月には学園祭・学遊祭が開催され、PTA研修会としてワークショップ「オリジナルペーパーバッグづくり」を開きました。学校内で日頃使っているコピー用紙の包装紙を使ってバッグを製作し、消しゴムはんこで飾りつけました。大勢の方々が来てくださり、PTA役員がレクチャーしながら製作して頂きました。カフェスペースもあり、来場者の交流の場として大いに賑わいました。



学園祭ワークショップ

こうして一年を振り返ると、昨年の世相を表した「災」の言葉通り多くの自然災害や事件など、子どもたちを取り巻く環境は益々厳しくなってきました。これからも私どもは子どもたちを見守っていかねばなりません。今後も子どもを通してできた縁を大切に、充実した学校生活の一助となるよう取り組んでいきたいと考えております。

雄峰高校PTA
会長 三ツ橋仁美

高岡工芸高校PTA

「現状と変化に対応」

本校のPTAは4つの委員会を設置しており、各委員会が生徒の学校生活の支援のため様々な行事に取り組んでいます。進路指導委員会は、生徒の進路先となつてくる企業や学校を見学して、保護者として子供の進路に適切なアドバイスなどができるようにと、研鑽を積むことを目的として毎年大型バスで実施しています。



進路指導研修会

生活指導委員会は、先生や生徒たちとさわやか運動に参加して全校生徒や他校の生徒、地域の方々との挨拶を交わすことにより、心豊かな人間育成やより良い地域づくりを目指しています。また、少年補導委員会にPTA委員を派遣して、街頭補導や研修会への参加を通して、青少年の健全育成を目指しています。文化広報委員会は、年2回のPTA通信(広報)の編集発行や、2日間開催の尚美展(学校祭)ではPTA役員が中心となつて、どんどん焼きなどの模擬店を出してにぎわいを出し、売り上げは学校に寄付します。特徴的なのは、現役時代にPTA活動を支えておられたPTA役員とのOBで構成する教育振興会の方々も積極的に参画出して生徒たちの店と共に



さわやか運動

に大いに、にぎわいを創出しています。生涯学習委員会では、毎年夏に教養講座として物作りの教室を開催しており、PTA会員だけでなく、生徒や教育振興会の方々も参加し作品の制作に取り組んでいます。本年度は、サンドブラストに挑戦しグラスに思い思いのデザインを施しました。できた作品は尚美展で美術館に展示し来場者に成果を発表しています。昨今の社会情勢の中、学校内の防犯対策も検討しなければならぬ事案も発生した事もあり、PTA役員会で協議を重ね防犯カメラを設置する事業も起こしました。



尚美展

また、大変暑いを通り越し、酷暑と言われるような日が続いた事もあり、PTA内から生徒の健康状態を心配する声が多く寄せられるようになりました。予算とのにらめっこではありましたが、まず運動会などの屋外行事への熱中症対策として、テントを購入整備しました。また、猛暑日の多発と校内の温度上昇を鑑み、役員会で協議を重ねエアコン整備事業について検討を致しました。結果的には臨時総会を開催し、普通教室にPTAでエアコンを設置することが機関決定され、設置プロセスを31年度稼働に向けて動き出すことになりました。卒業していく3年生の保護者の皆様にも、生徒たちのために積極的に真剣に協議に参画して頂いたことにも感謝しています。

高岡工芸高校PTA
会長 水口 清志

＊南砺平高校PTA＊

「健全な人格形成に向けた
子供たちへの関わり方」

本校は、会長1名、副会長4名、
監事2名、役員11名が中心となり、
PTA活動を行っています。

学校と連携をとりつつ、校風を守
り、発展させていくことや、子供た
ちが健全で充実した高校生活を過
すことを目指して、今年度PTAが
取り組んだ活動を紹介します。

●さわやか運動

PTA組織の中にある生徒生活指
導委員会では、夏の「さわやか運動」
期間に、教職員や子供たちと一緒
にあいさつ運動を行い、マナーや規範
意識を高める活動を支援しました。

●学園祭

3年に一
度開催され
る学園祭で
は、子供た
ちが中心と
なって計
画・運営さ
れた食堂に
うどん作り
係としてP
TAも加わ
り子供たち
の活動を支援しました。



学園祭

●祭礼巡視

生徒生活指導委員会を中心に、平

上平地区の祭礼や小・中・高合同運
動会、夏季休業前に計8回、巡視活
動を行い、保護者と地域住民とが一
体となって、子供たちを健全に育て
ていく活動を実施しました。

●冬支度・球根植え

十月下旬には、冬に備えて雪囲い
の設置や、春に楽しむためのチュウ
リップの球根植えを子供たちと一緒
にPTAも行い、子供と触れ合う機
会を設けました。

●学校保健委員会

年末に行

われた学校
保健委員会
では、学校
医や教職員、
子供たちと
一緒に、P
TA役員も
加わり、健
康に関する
本校の諸問
題を把握し、
親の目線で子供たちへ
助言しました。



学校保健委員会

南砺平高校は、自然に恵まれた小
規模校であることで、より多くの子
供たちと触れ合う機会があります。
今後この地域性を生かし、子供た
ちの健全な育成に向けた取り組みに
より一層の支援や協力をし続けてい
きたいと思えます。

南砺平高校PTA

会長 水口 浩巳

新年度教育関係予算の
充実を知事に要望

1月21日に山崎会長と副会長5名
が県庁に石井知事を訪ね、「時代の
進展に即応した学校づくりの推進」
「特別支援教育の充実」「高校生徒
指導等の充実」「教員の資質向上」
の4点を重点に県立学校の教育振興
を要望しました。

また、県立高校普通教室への空調
設置、ICT教育
の充実、
さらには
魅力ある
学校づく
りなどに
についても
要望しま
した。



石井知

事は、「空調については、できるだ
け速やかに設置できるように、また
設置校との公平性の問題は、 balan
スのとれた形で対応していきたい。
ICT環境については、タブレット
等は相当拡大しているが、さらにで
きるだけ速やかに整備に努めていき
たい。魅力ある学校づくりについて
は、ライフプラン教育、職業人との
交流、ふるさと教育、海外有名大学
での研修等、学校現場のニーズに見
合うようにしていきたい。また、部
活動指導員、スクールカウンセラー、
スクールソーシャルワーカー、ス
ポーツエキスパート等の外部人材の
活用に努力していきたい。」などと
回答されました。

平成30年度の主な事業

- 4月20日 29年度第4回理事會
- 5月17日 第1回幹事會
- 6月5日 定期大會
- 6月21日 第1回企画委員會兼理事會
- 6月中下旬 地区PTA指導者研修會
- 7月13・14日 北信越地区高P連研究大會
新潟大會
- 7月19日 第2回企画委員會
- 7月21日 第47回富山県社会教育大會
- 8月3日 県P連・高P連教育懇談會
- 8月20・21日 全国高P連大會佐賀大會
- 9月27日 第3回企画委員會
- 9月28日 第2回理事會
- 10月11日 第2回教育向上委員會
- 10月23日 県高P大會北指導者研修會
- 11月9日 教育関係予算の県教委陳情
- 12月12日 第4回企画委員會
- 1月21日 教育関係予算の知事要望
- 2月19日 第5回企画委員會
- 第3回理事會

編集後記

今年度も会員の皆さまには、各学
校のPTA活動はもとより各大会等への
参加、西日本豪雨災害義援金活動、11
7運動、本会報への寄稿をはじめとし
て本連合会の事業にご理解、ご協力を
いただきありがとうございました。

さて、高校教育は大きな変革の時を
迎えており、現在、各々学校ではその対応
を進めています。また、来年度、本連合
会は70周年の節目の年を迎えます。県
高P連では今後、子どもたちが健
やかに成長するための活動を推進したい
と思えますので、ご協力よろしくお願
いいたします。(事務局長 広井 睦)